

2026年度（令和8年度）事業計画書(案)

福祉型障害児入所施設 木埋学園

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

- ① 福祉型障害児入所施設 20名
- ② 短期入所事業 2名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

(3) 地域における公益的な取組

- ① 町内の清掃活動（イオン清掃・町内一斉清掃）
- ② ペットボトルキャップ回収（キャップリサイクル及び、ワクチン代への寄付）

(4) 運営方針

児童一人ひとりの心身の状態に応じた質の高いサービスの提供に努めるとともに、健全な発達・成長を支援致します。

近年、学園においては措置入所・契約入所を含め、支援に困難性を伴う児童の増加が見られます。また、発達障害や愛着形成に課題を抱える児童等による粗暴行為が日常的に生じている状況にあります。こうした状況を踏まえ、職員には、利用児童の特性理解に関する学習を深めるとともに、より効果的な支援方法の標準化を図ってまいります。あわせて、児童虐待を防止する観点から、権利擁護および虐待防止に関する研修への継続的かつ積極的な参加を促します。さらに、関係機関を強化するとともに、保護者との信頼関係性を丁寧に構築しながら、より有効な支援の実現に努めてまいります。

児童の安全を確保するため、各年度の始まりに先立ち、施設設備の安全点検や施設外活動を含む日常の活動における安全管理、職員および児童への安全に関する指導、職員を対象とした訓練・研修などを計画的に整理し、年間スケジュール（安全計画）として定めます。

地域の利用ニーズに応じた支援を行いながら、短期入所など体験の機会となる受け入れ態勢を整えることで、事業の安定化と機能の充実を図ります。あわせて緊急一時保護など、地域を支えるセーフティーネットとしての役割を大切にし、安心して利用していただける支援体制づくりに取り組んでいきます。

職員が施設運営を自分事として捉えられるよう、収支の状況を分かりやすく伝えながら、無理のないコスト削減や経費の見直しに取り組み、日々の業務の中で自然と経営意識が生まれる職場づくりを目指します。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	障害児入所施設としての専門性を生かし、地域の安心を支える役割を担う
現状と課題	・児童の特性が多様化・重度化するなかで、家庭のみでは対応が難しいケースが増加し、一時保護委託や短期入所のニーズが高まっている現状を、地域における重要な役割と受け止める。
取組の方向性	・児童相談所、市町村、学校、医療機関などと密に連携し、受け入れから支援の方向性方向性までを地域全体で矯正する体制を構築し、一時的な受け入れを単なる保護にとどめず、児童の特性や背景を丁寧に把握し、次の支援につなげる支援拠点としての機能を発揮する。

実施施策	施設内の情報の発信
現状と課題	・施設内での生活の様子や行事への参加状況について、お伝えできる機会が十分といえない状況にある。
取組の方向性	・SNSでの発信（同意了承のみのご家庭） ・HPの更新 ・学園だよりでの発信（同意了承・却下の双方のご家庭）

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	支援の振り返りやケース検討会を通じて、実践知をチームで共有
現状と課題	・改善の気づきがあっても日々の忙しさの中で具体的な行動に繋がりにくい状況が見られる。
取組の方向性	・限られた職員数の中でも業務が円滑に進むよう、OJT 制度を中核に業務そのものを学びと成長の場とすることで、業務の優先順位を整理し、チームで補完し合う体制作りを通じて、効率的かつ継続的な業務改善を進めていく。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	働きやすさとやりがいを大切にする、福祉の魅力ある職場づくり
現状と課題	・障害児入所施設は、子どもの成長を支える重要な役割を担っているが、福祉業界全体として仕事の魅力や多様な働き方が十分に伝わらずに人材確保に課題がある。

取組の方向性	・職員が安心して働き続けられる環境作りを基盤に、業務の効率化や柔軟な勤務体制の導入を進め、働きやすさの向上を図る。あわせて、日々の実践の中で感じられる成長ややりがいを大切にし、職員の声を職場作りに反映していく。
--------	---

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	働きがいのある職場づくり
現状と課題	・残業が少なからず改善されているが、今後も継続していきたい。
取組の方向性	・業務の見える化とチームでの役割を進め、「一人で抱え込まない働き方」を組織として整えていく。あわせて、休暇取得や勤務調整を権利として認め合う風土作りを進め、仕事のやりがいと私生活の充実が両立できる環境を整えることで、職員が安心して力を発揮し続けられる職場をめざす。

実施施策	健康経営の推進（社食の導入）
現状と課題	・職員の食事の偏りや金銭的負担が感じられる。
取組の方向性	・社食を導入し、事業所が支援することで、職員の金銭的負担が軽減されるとともに、日常的な行動で本人の意識や意欲に関係なく参画でき、バランスの良い食事提供を栄養士のアドバイスを受けながら行う。

(2)利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	個別支援計画の充実
現状と課題	・児童の特性が多様化・重度化するなかで、専門的ケアを必要とするケースが増えている。児童の特徴や状況、ニーズなどを把握するための適切なアセスメントの実施継続。
取組の方向性	・他職種とのケース会議やモニタリングを実施し、状況に応じた支援内容の見直し・変更をすすめ、児童一人ひとりの意思決定を尊重したサービスを提供する。

実施施策	職員の専門性の向上
現状と課題	児童の特性が多様化・重度化するなかで、児童の意思をくみ取り支援を行いながら、自己決定の機会を大切にする。
取組の方向性	・多職種連携の場を「情報共有の場」ととどめず、支援の根拠や専門的視点を学び合う機会として位置付ける。ケース会議

	やモニタリングを通じて、児童一人ひとりの意思決定支援の考え方や関わり方を共通理解し、OJT・Off-JT や振り返りを重ねながら、組織としてブラッシュアップする。 ・こどもグループワーク（性教育）については、外部講師に依頼して専門性向上を図っている。今後は現場での実践を継続して取り組みながら、本取り組みにとどまらず、今後も外部講師を招いた新たな研修の機会を取り入れる。
--	---

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	リスク管理体制の充実
現状と課題	インシデント報告およびヒヤリハット報告の内容・改善内容について協議を行い、月 1 回の職員会議での周知を今後も継続していく。
取組の方向性	・インシデント報告やヒヤリハット報告は、責任を問うものではなく、よりよい支援や職場づくりに繋げるための大切な共有と捉える。気づきを伝えてくれたこと自体を大切にし、報告が現場の改善につながるよう共有し改善していく。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域貢献
現状と課題	定期的に行っている活動には参加しているが、新しい取り組みまでには至っていない。
取組の方向性	・ペットボトル回収イオン清掃活動の継続 ・施設見学以来の定期的な受け入れ。

実施施策	学生の実習・見学の積極的な受け入れ
現状と課題	定期的に学生の実習受け入れ福祉現場の魅力を伝える大切な機会と位置付ける。
取組の方向性	・学生の実習や施設見学を継続的かつ積極的に受け入れ、次世代の育成を図るとともに、障害福祉への理解と関心を高めていく。あわせて、学生実習におけるニーズを把握し、実習内容の充実に努める。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	緊急一時保護・短期入所の受け入れ
現状と課題	発達障害児の一時的な受け入れ先がなく、学園への依頼が多

	い。
取組の方向性	・職員の配置体制やご家族へ施設の環境などを説明しながら、対策を柔軟に考え、受け入れの確保をしていく。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	BCP（業務継続計画）の構築と周知（感染症及び防災対策）
現状と課題	感染症及び防災業務継続計画の周知が職員に十分行えていない。研修会、訓練を通して、周知を行っていく必要がある。
取組の方向性	・感染症発生時の必要物品等の確保・感染症の予防と対応力を高める為の職員への研修を促し、感染予防の徹底を図る。 ・災害発生時に、児童・職員が迅速に対応できるように、研修会や訓練を通じて意識向上や災害時への備えを継続して進める。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	関係機関との連携強化
現状と課題	・児童を取り巻く環境において、学園・学校・児相・家庭など、多くの関係機関と繋がりながら関係性を築いている中、双方の情報共有に漏れが生じることも見られている。
取組の方向性	・連絡帳、連絡票、伝達日誌などの情報伝達ツールの活用を継続するとともに、組織体制を意識した報連相に取り組む。

3 目標利用率

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/月
生活介護事業	20名	85%	85%	85%	90%	90%	90%	90%	95%	95%	100%	100%	100%	92.1%
短期入所事業	2名	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

4 固定資産物品購入計画

（単位：千円）

名 称	執 行 見 込 額
なし	

5 修繕計画(大規模修繕を除く)

（単位：千円）

名 称	執 行 見 込 額
トイレ排水設備の修繕	300
壁・床修繕	200

ドア修理	1 0 0
予備費	5 0 0
排水溝補修工事（給食課）	4 3 7
LED 照明の設置（給食課）	1 0 0

6 大規模修繕計画

（単位：千円）

名 称	執 行 見 込 額
なし	

令和8年度 年間行事計画書(案)

木理学園

内 訳 月	行事・体育 レクリエーション	保健衛生関係	研修会関係	法人	学校
4月	入学祝い会 お楽しみ会 セレクトランチ 地域貢献	胸部レントゲン撮影 博愛定期受診（成人）	新任職員研修会（前期）		始業式 入学式 歓迎遠足 PTA保護者会
5月	大分県障がい者スポーツ大会 セレクトランチ 地域貢献	心電図・採血 博愛定期受診（学童） 健康診断	社会福祉施設等中堅職員研修会 大分県発達障害支援専門員養成研修会 自閉症啓発デー 社会福祉施設等新任介護担当職員研修会 認知行動療法研修会		由布支援学校運動会
6月	ゆうあいスポーツ大会 風船バレーボール大会 セレクトランチ 地域貢献	国内消毒 脳波検査	全国施設長会議 社会福祉施設等新任介護担当職員研修会 新任職員研修会（後期） 相談支援従事者初任者研修会 発達障害者支援専門員養成研修		由布支援学校中学部職場体験学習 由布支援学校高等部職場体験学習
7月	納涼祭 海水浴 セレクトランチ 地域貢献	職員定期健康診断 衛生教育 博愛定期受診（成人）	社会福祉施設等新任介護担当職員研修会 発達障害者支援専門員養成研修 認知行動療法研修会 九州地区知的障害関係職員研修	納涼祭	宿泊学習（由布支援学校小学部） 宿泊学習（由布支援学校中学部） 期末PTA（由布支援学校） 終業式（由布支援学校）
8月	一泊旅行 セレクトランチ 夕涼み会 小野屋十七屋観音祭	博愛定期受診（学童）	福祉避難所設置推進講演会	コスモスロード種まき	由布支援学校環境美化・除草
9月	日帰り旅行 球技大会 大分県障害児（秋の交歓会） 地域貢献 セレクトランチ		全国知的障害福祉関係職員研究大会 社会福祉施設等新任介護担当職員研修会 大分県発達障害支援専門員養成研修会 施設等指導職員研修講座 障害児者施設等職員研修会		始業式（2学期） 由布支援学校高等部修学旅行 高等部現場実習
10月	アイネットワーク音楽祭 セレクトランチ 地域貢献	博愛定期受診（成人） 子宮がん検診 胃がん検診	全国児童発達支援施設運営協議会 認知行動療法研修会 消毒インストラクター養成講習会		由布支援学校中学部修学旅行
11月	向陽学園祭 コロニー収穫祭 総合防災訓練（日中） 地域貢献 ふるさと祭り	博愛定期受診（学童） インフルエンザ予防接種 内科検診	大分県発達障害支援専門員養成研修会 子どもの虐待防止フォーラム 社会福祉施設等指導監督職員研修会 由布市社会福祉大会 九州地区知的障害者福祉関係職員研究大会		由布支援学校学習発表会（長宝祭）
12月	クリスマスお楽しみ会 クリスマスイルミネーション見学 冬季一時帰宅 地域貢献 セレクトランチ	職員深夜業検診	強度行動障害支援者養成研修会 障害者虐待防止・権利擁護研修会 認知行動療法研修会 九州地区支援施設部会 児童発達支援管理責任者研修会		由布支援学校小学部校外学習 高等部2年現場実習 高等部チャレンジ検定 由布支援期末PTA 支援学校終業式
1月	由布市成人式 成人祝い会 セレクトランチ 地域貢献	博愛定期受診（成人）	認知行動療法研修会 発達障害者支援専門員養成研修 児童発達支援管理責任者研修会		始業式（3学期）
2月	節分 セレクトランチ 地域貢献	博愛定期受診（学童）	認知行動療法研修会 障害者施設等職員研修会 社会福祉施設等新任介護担当職員研修会		
3月	卒業祝い会 高等部卒業旅行 セレクトランチ 地域貢献		県知的障害者施設協議会職員研修会 強度行動障害支援者養成研修会 社会福祉施設等看護担当職員研修会		学期末PTA 新生入学選考 卒業式

